

容器包装 3 R 推進のための自主行動計画 2025

2023年度実績フォローアップ報告

3 R 推進団体連絡会

ガラスびん 3 R 促進協議会
PET ボトルリサイクル推進協議会
紙製容器包装リサイクル推進協議会
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
スチール缶リサイクル協会
アルミ缶リサイクル協会
飲料用紙容器リサイクル協議会
段ボールリサイクル協議会



3 R 推進団体連絡会と自主行動計画

容器包装リサイクル法改正の審議過程

事業者の役割
の徹底・深化

主体間連携の強化

3 R 推進団体連絡会の結成：2005年12月

第1次自主行動計画（2006～2010年度）

第2次自主行動計画（2011～2015年度）

自主行動計画2020（2016～2020年度）

自主行動計画2025（2021～2025年度）
（2021年4月公表）

2023年度
実績の
フォローアッ
プ

自主行動計画 2025 2023年度の主な成果

I. 事業者自ら実施する3R行動計画

報告書p.2

1 リデュースの推進

- ・ 容器包装の最適化の取り組み
- ・ リデュース目標の設定

2 リユースの推進

- ・ リターナブルびんの環境優位性の普及啓発
- ・ びんリユースシステムの持続性確保

3 リサイクルの推進

- ・ リサイクルに適した設計の普及
- ・ 多様な回収ルート of 確保
- ・ 関係主体との情報共有や連携
- ・ リサイクル目標の設定

4 普及・啓発活動の推進



数値目標

- リデュースについては全ての素材が、リサイクルについては8素材中6素材が数値目標を達成しました。
- 今後ともリデュース・リサイクル水準の維持とさらなる推進を図ります。

リユースシステムの維持

- ガラスびんリユースシステムの維持に向けては、持続性確保の取り組みを関係者と連携して引き続き進めています。



リデュースの取り組み

報告書p.3

容器包装の最適化の取り組みを推進

- ❑ 容器包装最適化の事例の普及に向け、3R改善事例集やWEB上の検索システムの作成・活用
- ❑ 段ボールでは2023年5月、新たに「段ボール製容器包装の自主設計ガイドライン」を策定・公表
- ❑ プラスチック資源循環促進法に対応し、PETボトルやプラスチック容器包装でも新たな指針等を作成

ベースとなる基準作り

既にガイドラインは策定済みであり、これを元にプラスチック容器包装リサイクル推進協議会の環境配慮等専門部会にて軟包装の環境配慮設計認定基準案を作成

プラスチック資源循環リサイクル推進協議会

軟包装 ベース基準

※ガイドラインは策定済

中身の業界団体は参考に

プラ推進協のベース基準を参考にブラッシュアップし、中身業界団体が認定基準を申請

中身の様々な業界団体がベース基準を参考に策定

ブラッシュアップ基準

公益財団法人 産業物・3R認定財団



紙製容器包装 3 R 改善事例集

適用範囲

指定PETボトルのボトル本体(把手等付属物を含む)、キャップおよびラベル(印刷物・接着剤を含む)を対象とする。

設計にあたっての考え方

使用製品に求められる安全性や機能性等その他の用途に応じて求められる性能並びに配慮(1)及び(2)に掲げる事項について、それぞれトレードオフの関係となる場合があることにも留意しながら、製品のライフサイクル全体を通じた環境負荷の影響を考慮し、事業者自らが合理的に環境配慮設計に係る取り組みについての優先順位等の決定を行うこととする。その際、(3)から(6)までに掲げる事項について留意する。

配慮事項

配慮事項	検討項目	評価項目
① 減量化	製品の軽量化 材料投入量の削減	従来品・同等品に比べて軽量化されているか 製造時の歩留まりの向上により、材料投入量が削減されたか
② 包装の簡素化	ラベルの簡素化	ラベルの簡素化、ラベルレス等の工夫により、プラスチック使用量を削減されたか
③ 長期使用・長寿命化	内容物の長寿命化 (賞味期限延長で食品ロスの削減等)	従来品・同等品に比べて長寿命化されているか
④ 再利用可能な製品の再使用	リユース設計の検討	繰り返し使用可能な仕組みがあるか (安全性・衛生性および環境負荷(回収率・輸送距離等)の面から可能性を検討)
⑤ 単一素材化等	単一素材化等	単一素材化されているか ボトル本体はPET素材とする*
⑥ 分別・分別の容易化	易解体・易分別等	キャップは主要成分であるか 使用時に容易に、ボトル本体とは分離することが出来るか リサイクル工程での分別が容易な形状・構造等を採用しているか リサイクル工程での分別が容易な形状・構造等を採用しているか

※PET素材以外の素材は、PET素材と同等の性能・機能・安全性を確保していること、かつ、PET素材と同等の環境負荷を削減していること、を条件として認める。

PETボトルの環境配慮設計指針(抜粋)

プラスチック容器包装
軟包装の設計認定基準の標準
(案)



リデュース目標の達成状況

素 材	指 標	2025年度目標 (基準年度：2004年 度)	2023年度実績
ガラスびん	1本／1缶当 たり平均重量 の軽量化率	1.5%以上	2.4%
PETボトル		25%以上	28.4%
スチール缶		9%以上（※1）	9.9%
アルミ缶		6%以上	6.8%
飲料用紙容器	1㎡当たり平 均重量の軽量 化率	3%以上（※2）	3.6%
段ボール		6.5%以上	7.0%
紙製容器包装	リデュース率	15%以上	21.1%
プラスチック容器包装		22%以上	22.1%

※1 2021年に8%から上方修正

※2 牛乳用500mlサイズカートンを対象とする。

資源の節減効果：2006年度から累計で約1,366万トン

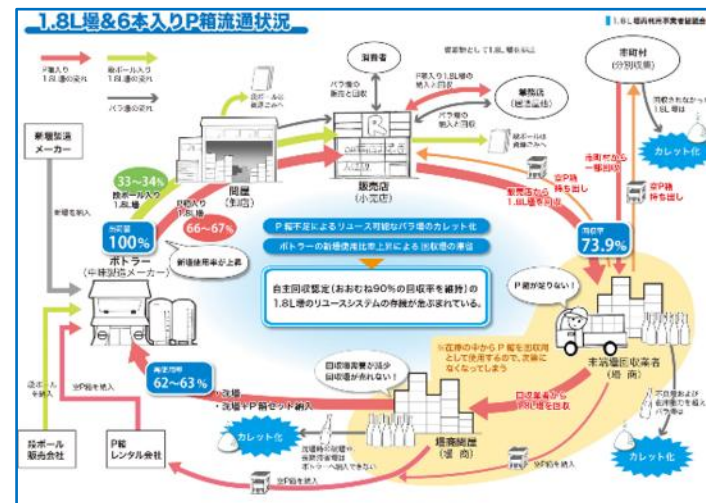


リユースの取り組み

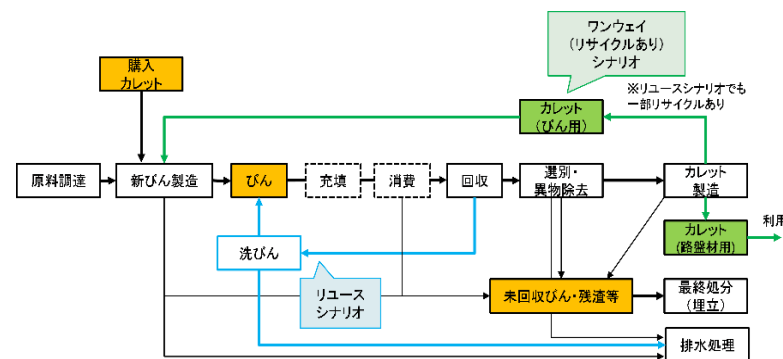
報告書p.5

びんリユースシステム持続・構築のための関係主体との取り組み

- 1.8L壺回収率向上に向け、日本酒造組合中央会等の関係団体と連携して取り組み
- 日本ガラスびん協会、東京家政大学と連携し、学内CO₂排出削減を可視化する実証事業「be draw project」を推進
- ガラスびんリユースシステムのライフサイクル分析を実施、概要を専門サイトに掲載



1.8L壺のフロー



LCAのシステム境界



リサイクルの取り組み

報告書p.6

環境配慮設計、リサイクルマーク等の工夫、回収ルートへの支援など、事業者によるリサイクル推進の取り組みを展開

- ❑ リサイクルのための環境配慮設計の推進
- ❑ 識別表示のマークやリサイクルマークなどの表示の工夫
- ❑ 既存の回収ルートにおける各種支援など



小学校でのスチール缶集団回収の様子と
環境教育支援表彰



アルミカップや段ボールの
リサイクルマーク



リサイクル目標の達成状況

素 材	指 標	2025年度目標 (基準年度：2004年 度)	2023年度実績
ガラスびん	リサイクル率	70%以上	75.0%
PETボトル		85%以上	85.0%
プラスチック容器包装		60%以上 ※1 (46%)	69.5%
スチール缶		93%以上 ※2	93.5%
アルミ缶		92%以上	97.5%
紙製容器包装	回収率	28%以上 ※3	22.4%
飲料用紙容器		50%以上	38.8%
段ボール		95%以上	97.8%

※1 2021年度より算定方式を見直し（カッコ内は従来の算定方式）

※2 2021年に90%から上方修正

※3 2021年度より算定方式を見直し



容器包装の3R推進に関する普及啓発・情報発信、 その他環境保全に関する普及活動等を実施

- ❑ パンフレット、年次報告書の普及
- ❑ 展示会やイベント、ICTを活用した情報発信
- ❑ セミナー開催、マテリアルフロー調査などの調査・情報提供など



再生紙メーカー見学会
(飲料用紙容器)



アルミ缶リサイクル協会
での来協教育



プラスチック容器包装環境配慮パッケージ
事例検索システム「プラっとサーチ」¹¹

Ⅱ. 主体間の連携に資するための行動計画

市民に対する普及啓発活動や各種調査・研究活動への参画・実施を通じ
市民・自治体・国等との連携に資する取り組みを展開中。

1 当連絡会の取り組み

■情報共有・意見交換の充実

- ・ フォーラム、セミナーの開催
- ・ 地域活動への支援と交流促進

■広報・啓発事業

- ・ 各種情報媒体による広報・啓発
- ・ 展示会への出展
- ・ 発信・共有すべきコンテンツの充実

■調査・研究事業の実施

- ・ 消費者意識調査の実施
- ・ 学識者との共同研究の推進

2 共通テーマに基づく各団体個別の取り組みの推進



各主体との意見交換事業

- 新型コロナに関する行動制限はほぼなくなり、フォーラムや意見交換会では、参加いただいた人数がコロナ禍以前を上回りました。

交流事業や広報啓発事業事業

- NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットとの協働事業である3R市民リーダー育成プログラム、エコプロなどの展示会への出展事業などを展開しました。





- 各主体との意見交換・交流を推進するため、「容器包装3R交流セミナー」として意見交換会を開催（3R活動推進フォーラムとの共催）
- 2023年度は札幌市・松江市・宇都宮市の3都市で開催し、139名が参加
- 2024年度は高松市、岐阜市で開催
2025年2月に前橋市で開催を予定



高松市での意見交換会
（グループディスカッション）



2023～2024年度トピックス 3 R市民リーダー育成プログラム

❑ 3 R市民リーダー育成プログラムとは

- 地域の行政の協力得ながら、3 R市民リーダーの育成講座やイベントの開催などにより、新たなリーダーの育成を図る事業。（事務局：NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット）

❑ 2023年度は文京区にて3 R市民リーダー育成講座を実施

❑ 過去協働した各地の3 Rリーダーの皆さんと交流・情報交換を行うスキルアップ研修や、自治体の清掃・リサイクル事業担当者との情報交換会も並行して実施。



自治体担当者との情報交換会



実践発表（文京区）



2023～2024年度トピックス フォーラムの開催

❑ 容器包装 3 R 推進フォーラム

- ・ 年1回、容器包装 3 Rや分別収集の先進的な取り組み事例などを消費者・市民団体、行政関係者、学識経験者と共有、意見交換を実施。通算18回の開催を通じ、のべ3,700名が参加。

❑ 第18回フォーラム（2023年度）は、2024年2月2日に専売ホール（港区）で開催 （WEB配信とのハイブリット）

❑ テーマは「容器包装の 3 R・資源循環 近未来の資源循環を考える」

- ・ 第19回フォーラムは2025年1月28日、「サーキュラーエコノミーの推進に向けた容器包装 3 Rの意義」をテーマに文京区・全労連会館で開催予定



第19回フォーラムチラシ



2023～2024年度トピックス 展示会への出展・イベント協力

報告書p.15

- ❑ エコプロ2023に出展し、連絡会の共通ブースでパネル展示等を実施
- ❑ 2024年10月に開催された「3R推進全国大会」（さいたま市）にブース出展
- ❑ （公社）全国都市清掃会議の2024年度春季総会・秋季評議員会に協力



3R推進全国大会（さいたま市）



エコプロ2023への出展

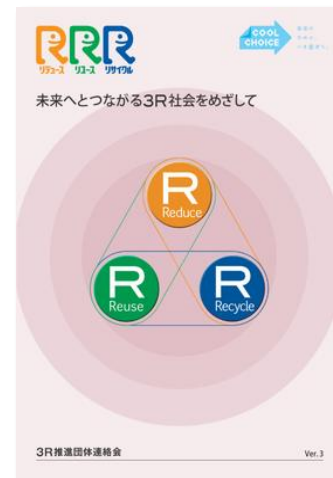


❑ 3 R市民リーダーとの共同作業の成果「リサイクルの基本」

- 八素材の容器包装の3 Rの知識を分かりやすく網羅
- 累計1万6千部以上の配布実績
- 2023年7月にVer.5に改訂

❑ 啓発パンフ「未来へとつながる3R社会を目指して」

- 当連絡会の紹介と容器包装3Rの基礎情報を掲載



未来へとつながる
3 R社会を目指して



リサイクルの基本



WEBサイトやポスターを通じた情報発信



3 R 推進団体連絡会ホームページ



共通ポスター



3 Rのさらなる推進に向け、
引き続きご支援、ご協力をお願いいたします。

3 R推進団体連絡会